



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)イリス苗穂計画	階数	地上10階
建設地	東区北5条東10丁目16-1、-10、-11	構造	RC造
用途地域	準工業地域、JR苗穂駅周辺地区(集合住宅B地区)	平均居住人員	517人
建物用途	病院	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
竣工年	2024年3月 予定	評価の段階	
敷地面積	4,558㎡	評価の実施日	2022年4月20日
建築面積	1,644㎡	作成者	開
延床面積	11,788㎡	確認日	
		確認者	



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★ B+

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 74%

③上記+②以外のオンサイト手法 74%

④上記+オフサイト手法 74%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 一次エネルギー消費量の評価

建物全体の[BEI][BEIm]= 0.69

2-5 中項目の評価 (バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.1

Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.2

音環境	3.2
温熱環境	2.7
光・視環境	3.4
空気質環境	3.5

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.9

機能性	3.0
耐用性・信頼性	2.7
対応性・更新性	2.7

Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア = 3.2

生物環境	3.0
まちなみ・景観	4.0
地域性・アメニティ	2.5

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.3

LR1 エネルギー LR1のスコア = 4.3

建物外皮の熱負荷	5.0
自然エネルギー	3.0
設備システム効率化	5.0
効率的運用	2.5

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.5

水資源保護	2.2
非再生材料の使用削減	2.6
汚染物質回避	2.6

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.0

地球温暖化への配慮	4.0
地域環境への配慮	2.5
周辺環境への配慮	2.5

3 設計上の配慮事項

<p>総合 L字で東西を分譲共同住宅に挟まれる敷地において、東西隣地境界からの離れを最大限にとり、周囲への圧迫感を低減する計画としている。</p>	<p>A 省エネルギー マイクロジェネレーションシステムの採用により省エネルギー化を図っている。</p>
<p>B 省資源等 直接基礎を採用し、底面積の大きなフーチングとすることで、基礎底を浅く設定でき、それにより、掘削量の低減・基礎躯体量の省資源化を図っている。</p>	<p>C 緑化 前面道路側に重点的に緑地スペースを確保し、歩道状空地と併せて整備することにより、近隣に潤いのある環境を提供する。</p>
	<p>D 雪処理 駐車場となる部分には全面ロードヒーティングを施し、敷地外に排雪しなくともよい計画としている。</p>

4 ほかの認証・評価制度の利用

(財)建築環境・省エネルギー機構のCASBEE認証	-	BELS認証	-	LEED認証	-
上記以外の認証・評価制度の利用					

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

CASBEE札幌2016 (ver.1.4)		■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0					
(仮称)イリス苗穂計画		■評価ソフト: CASBEE札幌2016 (ver.1.4)					
スコアシート							
配慮項目	重点 評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
			評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質							3.1
Q1 室内環境				0.40		-	3.2
1 音環境			3.3	0.15	3.2	1.00	3.2
1.1 室内騒音レベル			3.0	0.40	3.0	0.40	
1.2 遮音			3.8	0.40	3.6	0.40	
1 開口部遮音性能		居室はほぼ二重サッシとし、外部側アルミサッシ(単板ガラス)、内部側樹脂サッシ(複層ガラス)としている	5.0	0.40	5.0	0.30	
2 界壁遮音性能			3.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	3.0	0.20	
1.3 吸音			3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境			3.0	0.35	2.6	1.00	2.7
2.1 室温制御			3.0	0.50	3.0	0.50	
1 室温			3.0	0.38	3.0	0.57	
2 外皮性能	省エネ		3.0	0.25	3.0	0.43	
3 ゾーン別制御性			3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御			3.0	0.20	1.0	0.20	
2.3 空調方式			3.0	0.30	3.0	0.30	
3 光・視環境			3.0	0.25	3.6	1.00	3.4
3.1 昼光利用			4.2	0.30	4.2	0.30	
1 昼光率		2.3階リビング:3.7%、K1-bタイプ:3.39%	5.0	0.60	5.0	0.60	
2 方位別開口				-		-	
3 昼光利用設備	省エネ		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策			2.0	0.30	4.0	0.30	
1 昼光制御	省エネ	バルコニー手摺はほぼRC手摺を採用している	2.0	1.00	4.0	1.00	
2 映り込み対策				-		-	
3.3 照度			3.0	0.15	3.0	0.15	
3.4 照明制御			3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境			3.9	0.25	3.3	1.00	3.5
4.1 発生源対策			4.0	0.50	4.0	0.63	
1 化学汚染物質		対象建材は全てF☆☆☆☆を使用する	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気			3.0	0.30	2.3	0.38	
1 換気量			3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能				-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.50	1.0	0.33	
4.3 運用管理			5.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視				-		-	
2 喫煙の制御		共用部は禁煙である	5.0	1.00		-	

Q2 サービス性能			0.30	-	-	2.9	
1 機能性			3.6	0.40	2.8	1.00	3.0
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	3.0	0.60	
1	広さ・収納性			-	3.0	1.00	
2	高度情報通信設備対応			-		-	
3	バリアフリー計画		3.0	1.00		-	
1.2 心理性・快適性			5.0	0.30	2.5	0.40	
1	広さ感・景観 (天井高)	基準天井高さ2.500m		-	4.0	0.50	
2	リフレッシュスペース			-		-	
3	内装計画	計画段階からインテリアコーディネーターに参画してもらい、内装のトータルコーディネートを進めている	5.0	1.00	1.0	0.50	
1.3 維持管理			3.0	0.30		-	
1	維持管理に配慮した設計		3.0	0.50		-	
2	維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性			2.7	0.30		-	2.7
2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50		-	
1	耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80		-	
2	免震・制震・制振性能		3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数			2.4	0.30		-	
1	躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	省資源	1.0	0.20		-	
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	省資源	3.0	0.10		-	
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	省資源	3.0	0.20		-	
6	主要設備機器の更新必要間隔	省資源	2.0	0.20		-	
2.4 信頼性			2.8	0.20		-	
1	空調・換気設備	吊り配管により全機能停止にならないよう配慮	4.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		2.0	0.20		-	
3	電気設備		3.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		2.0	0.20		-	

3 対応性・更新性			3.4	0.30	2.4	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり			4.6	0.30	1.8	0.50	
1 階高のゆとり		1階:4.35m、2,3階:3.4m、4~10階:3.0m	5.0	0.60	1.0	0.60	
2 空間の形状・自由さ		基準階:0.23、居室:0.37	4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40		-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.20		-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.20		-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.10		-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.10		-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.20		-	
6 バックアップスペースの確保			3.0	0.20		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.2
1 生物環境の保全と創出	緑化		3.0	0.30		-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮	緑化	前面道路側に緑地スペースを確保し周囲に潤いのある空間を演出	4.0	0.40		-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	雷処理		3.0	0.50		-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	省資源 緑化		2.0	0.50		-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-		-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.3
1 建物外皮の熱負荷抑制	省エネ	[BPI][BPI _m]=0.72	5.0	0.20		-	5.0
2 自然エネルギー利用	省エネ		3.0	0.10		-	3.0
3 設備システムの高効率化	省エネ	[BE][BE _m] = 0.69 -	5.0	0.50		-	5.0
4 効率的運用			2.5	0.20		-	2.5
集合住宅以外の評価			2.5	1.00		-	
4.1 モニタリング	省エネ		3.0	0.50		-	
4.2 運用管理体制	省エネ		2.0	0.50		-	
集合住宅の評価				-		-	
4.1 モニタリング	省エネ			-		-	
4.2 運用管理体制	省エネ			-		-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.5
1 水資源保護			2.2	0.20		-	2.2
1.1 節水			1.0	0.40		-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.70		-	
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.30		-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.6	0.60		-	2.6
2.1 材料使用量の削減	省資源		2.0	0.10		-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	省資源		3.0	0.20		-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	省資源	-	3.0	0.20		-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	省資源	-	1.0	0.20		-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	省資源		2.0	0.10		-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	省資源	できる限りGL工法によらず、LGS壁として分別可能性を高めている	4.0	0.20		-	

3 汚染物質含有材料の使用回避			2.6	0.20	-	-	2.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			2.5	0.70	-	-	
1 消火剤	省資源		-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	省資源		2.0	0.50	-	-	
3 冷媒	省資源		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮	省資源	LCCO2排出率=74%	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止	省資源		3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	省資源 悪化 質処理		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	省資源	雨水浸透施設の整備により必要対策量(35.10)を上回る処理量(36.99)を確保	4.0	0.25	-	-	
2 污水处理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	省資源 質処理		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			2.5	0.33	-	-	2.5
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	0.33	-	-	
2 振動			3.0	0.33	-	-	
3 悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			1.6	0.40	-	-	
1 風害の抑制			1.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	
3 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.3	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		バルコニー手摺の大部分をRC手摺として反射光を低減するように配慮している	4.0	0.30	-	-	



■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2016v1.0

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2016(ver.1.4)

1 建物概要		BEE	1.3	BEEランク	B ⁺
建物名称	(仮称)イリス苗穂計画				
建物用途	病院.				
延床面積	11,787.8 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート	
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	★★★★★	<p>省エネルギー性能</p> <p>省資源等への取組</p> <p>緑化への取組</p> <p>雪処理</p> <p>★1=スコア(最低点~最高点)20%以下 ★2=スコア(最低点~最高点)20%~40%以下 ★3=スコア(最低点~最高点)40%~60%以下 ★4=スコア(最低点~最高点)60%~80%以下 ★5=スコア(最低点~最高点)80%以上</p>
	省資源等	★★★☆☆	
	緑化	★★★☆☆	
	雪処理	★★★★☆	

3. 重点項目のCASBEEスコア							
A 省エネルギー (最高点 23.1 最低点 6.6)				合計		18.8点 /23.1点	
Q1 温熱環境	スコア	0.6	/1.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	4.0	/4.0
Q1 光・視環境	スコア	1.0	/2.1	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.2	/2.0
				LR1 設備システムの高効率化	スコア	10.0	/10.0
				LR1 効率的運用	スコア	2.0	/4.0
B 省資源等 (最高点 23.7 最低点 7.7)				合計		13.4点 /23.7点	
Q2 耐用性・信頼性	スコア	0.5	/1.1	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	4.7	/9.0
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9	/2.3	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.1	/1.9
				LR3 地球温暖化への配慮	スコア	4.0	/5.0
				LR3 地域環境への配慮	スコア	2.2	/4.4
C 緑化 (最高点 15.3 最低点 3.1)				合計		9.4点 /15.3点	
Q3 生物環境の保全と創出	スコア	2.7	/4.5	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0	/2.5
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア	4.8	/6.0				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	0.9	/2.3				
D 雪処理 (最高点 3.0 最低点 0)				合計		2.0点 /3.0点	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア	1.0	/1.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0	/2.0

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■重点項目の最高点は、各評価項目でレベル5で評価された場合の点数

■重点項目の最低点は、各評価項目でレベル1で評価された場合の点数